

令和6年度 第3回 新・いわき湯本温泉コンテンツ創造ワークショップ 結果概要（要旨）

■ 日 時

令和7年3月18日（火） 18:30～20:00

■ 場 所

古滝屋 8階 音羽屋



■ 全体の流れ

- 1 開会
- 2 挨拶
 - ・ じょうばん街工房 21 箱崎副会長
- 3 ワークショップ
 - ・ 企画立案～選出したアイデアを実現可能な企画に仕上げる～
(ファシリテーター：面白企画創造集団トコナツ歩兵団団長 渡部祐介※)
※株式会社マイロックチョコレート代表
- 4 閉会

■ ワークショップの概要（要旨） ○：参加者 ●：ファシリテーター

<企画立案の仕上げ方>

- 第2回ワークショップまでに選出されたアイデアについて、実際に事業企画立案をやってみたいと表明いただいた方と打合せを行いました。
- 当日は、その方々からアイデアに対する想いを発表いただき、それに対して参加者の方々と意見交換を行い、実現可能な企画に仕上げていきました。

(主な意見等)

- 第1回ワークショップでは、皆さんからアイデアをいただき、第2回ではそこにアイデアを追加してもらいました。その後、アイデアを事業者として実施したいと手を挙げていただいた方とミーティングを行いました。今日は、そのミーティングの結果発表も踏まえて、お話をしたいと思います。
- 今回は、ビジネスの要素が大きかったため、この確度が高い方から順にお話します。

(A氏)

- 最初に、Aさんにお話いただこうと思います。
- Aさんは、アイデアで出た、「古い家」と「アーティスト」から、古民家でアーティストインレジデンスをしたいとお話がありました。
- 自分たちが湯本に来て写真館やお店を始めて、自分のお店を使っていろいろ活動をするときに、カルチャーとか、アーティストとか、アートを町に取り入れたら面白いのでは、自分も楽しめるのでは、という思いが強くありました。自分は、湯本に来てからアートに触れる機会が遠のいていたと強く感じるので、この湯本の再生整備にあたって町の小学生とか中学生、子供、大人にまで共感してもらえるような幅広いアートと呼びこむことができれば、刺激があって楽しいまちになるのではないかと思いお話をさせていただきました。
- Aさんとお話をしたときに、ビジネスとしてどこで稼いでいったらよいか課題でした。というのも、アートは補助金に頼ってしまう面が大きいからです。そこで、

アーティストルームの提案をしました。これは、旅館の一室をアーティストが改修することによって、今まで1泊1万円だった部屋をアートと一緒に2万円にして、それを販売するものです。そこで出た利益を、主催者とアーティストに還元する仕組みを作ってみてはどうかとお話をしました。ただ、このビジネスは基本的に部屋の稼働率がものをいうため、どこまで話題として広められるかがポイントだと思っています。

- また、Aさんから、昔の野口雨情さんとかいろんな方が泊まりに来たことも、パトロン文化のようなものがあつたのではといった話があって、このようなことを旅館とうまく掛け合わせられないかという話もありました。
- テーマパーク的な発想ですが、ほると組んで「炭鉱サウナ」も面白いのではないかと思います。ほるとの炭鉱夫たちが、開館以降初めてほるとを飛び出し、サウナに遊びに来るというイメージです。きちんとストーリーをすることで、お客さんをほるとに返すこともできます。
- また、小名浜本町通芸術祭のような芸術祭をやってみたいとも思っています。小名浜本町通芸術祭は、小名浜の商店街を使ってシャッター街の商店街に写真を展示するとか、リスポの閉店時に送り絵を書いたりとか、いろんな歴史をちょっと調べてみたりとかをやっていました。湯本では、閉店したスナックや、これから取り壊されてしまう建物があるので、期間限定で借りて、湯本等でも芸術祭ができればいいなと思っています。
- 閉店したスナックや居酒屋さんを、期間限定で単純に復活させるだけではなく、そこにアーティストの方を加えて、今だけ、過去だけではなくて、未来のものを提示して展開できれば、大きく稼げると思っています。
- 報道向けに打ち出す際は、閉店したスナックや居酒屋が再オープンする話題性と、アーティストという未来性のリリースをして、それを元にイメージをつけていくみたいなやり方もいいのでは。
- もし可能であれば、再生整備に伴い壊される建物を、解体前の1週間でも1ヶ月でもよいので、アーティストさんと呼んで、送り絵を書かせてもらい、その絵を見ていただければ、何となく今後の、自分たちがやりたいと思っている芸術祭の一端を垣間見てもらえるのではと思っています。
- ありがとうございます。今の発表に何か意見はありますか。
- 湯本駅前のアパートの解体時に同じようなことを提案したことがあります。無理やり温泉に結び付けるのではなく、自由度が高いものを話されていたのがよいと思いました。

(B氏)

- Bさんからは、練り切り教室とレンタルスタジオをやりたいとのお話がありました。
- 練り切りは、作るまで時間がとてもかかるため、職人さんが減っている現状がある一方で、練り切りづくりをしてみたいという声も多くあります。私は今自分で市民講座を開いていますが、毎回多くの申し込みがあり、抽選が必要なほどです。1回あたり、15~20名の方に参加いただいています。これは需要があるのではと思い、御相談しました。
- お聞きしたところ、15人の練り切り教室のために、準備に3時間かかる上、60~90分の講座で、受講料が1人当たり700円で、ほぼボランティアに近いそうです。事前準備の分も含めてきちんと金額を設定することが大事ですが、労力に対しての対価を考えると、たくさんの時間を費やすことはもったいないのではとお話を

させてもらいました。そこで、御自身のお店でないといけない理由、Bさんでなければならない理由が大事だと思い、それを教えてもらいました。

- 講座で、セーターにジーンズで教室に行くと、この人が先生なのかと疑問に思われることがあり、格好を考えたほうがいいのかとおっしゃっていたこと、お店が創業大正元年であること、練り切りのメニューを作る時に、お父様の古い和菓子本を参考に、現代風にアレンジをしてレシピを作られているという話を聞いたことをもとに、着物を着て大正ロマンの練り切り教室とすることを提案しました。
- 今後は、例えば練り切り教室の写真を撮ったり、参加者へメンバーズカードを発行したりして、もう一度参加してもらえるように促すとともに、お店のファンづくりを考えていきたいと思いますとお話をしました。
- また、ある旅館さんから、旅館の空いている日中の時間を有効活用したいという声を聞いたため、次年度の早いタイミングで、旅館の空いている時間を使って練り切り教室をやってみましょうというお話も出ています。
- 旅館さんの日帰り入浴や、ランチとの抱き合わせも面白いのではと思っています。
- ありがとうございます。今の発表に何か意見はありますか。
- 旅館さんで練り切り教室を開く場合は、台所を使うイメージですか。
- 手を洗う場所があればよいので、台所のイメージではありません。
- そうであれば、旅館さんに部屋を提供してもらい、オンラインで配信すれば、旅館のPRにもなるのでは。
- 「広げる」ことが大事だと思います。これができれば、必ず何かお店に返ってくると思います。

(C氏)

- Cさんからは、地元の子供たちが温泉のことを全然知らないこと、自分が地元で生まれて一番町商店街にたくさんお世話になってきたこと、地域貢献をしたいと思っていることを伺いました。そこで、幼稚園の子たちに温泉に入ってもらうことはできないかとの発想からご相談がありました。
- そこで、子供の無料入浴券を考えました。一度入浴に来てもらったお子さんに、次回使える子供の無料入浴券を渡すものです。同伴の親御さんにはアイス一本プレゼントのようなサービスをしてみてもいいかもしれません。
- 子供無料入浴券は、ただ作るだけでなく、これをきっかけに実際に来てもらえる人を増やさないとはいけません。そのためには、なぜ御自身の旅館の温泉でないといけないのか、という理由が必要です。この点についてCさんとお話をしたところ、他の旅館との違いがたくさん出てきました。一方で、得意な料理の部分についてはうまく理由が出ませんでした。
- 旅館のホームページを見ても、Cさんの想いや旅館の魅力が書ききれないと思ったので、まずは無料券を作る際に、旅館のいい点を整理してそれを他のところに波及させていければと思っています。

(D氏)

- Dさんとは、2回目のワークショップの中で出た、着物でビジネスをしようという流れから打合せをさせていただきました。特に、Dさんが今後どういったことをやっていきたいのかという話を中心にお聞きしました。
- このまちには、昭和感、レトロ感が大事だと思っていて、それを残したいです。そして常磐線が通っていて、都心から近く便利。これを生かしていろいろなまち歩きをしてゆっくりできるようになればと思います。また、緑を増やして、子供が外で

- 遊べて、自然の恵み、神様の耳にも感謝しながら、過ごせるまちもいいと思います。
- 私は着物でビジネスをしたいと思っていますが、これ以上暑くなると、着物が着られなくなってしまったため、温暖化を止めて欲しいと思います。
 - ゆっくり過ごせるまちにするためには、駅の近くに無料駐車場の設置が必要です。山形のかみのやま温泉には無料駐車場があるため、多くの人が歩いています。
 - また、湯本と言えば炭鉱のまちなので、炭鉱長屋を残してもらいたいと思います。そして、エネルギーと経済の歴史を学べるようにしてほしいです。
 - 私は、インバウンドとかではなく、着物を着たい人に着せてあげたり、小物を貸したりするビジネスを退職後にしたいと思います。着物を持っているけれど自分では着られない人に着せてあげたい。また、着付けや髪結いができる方、着物屋さんがいれば、雇用に繋がるので、明るい未来につながると 생각합니다。
 - 温泉、まち歩き、着物、宴を組み合わせるとリトリートをしたいとも思います。そのため、昼間の旅館をお借りできればと思います。
 - 50 年、100 年先を考えて、緑を残して古い建物を残すまちができたなら、このビジネスを率先してやりたいです。
 - D さんからは、現在は本職が忙しく、ご趣味で着物を楽しまれているお話を伺ったため、D さんがビジネスを始めたい時期が少し先にあると思いました。自分の知人で、着物ビジネスを観光地で展開している方がおりそのお話をしましたが、今の時点では、やりたいと思っていることを一つずつテキスト化してブラッシュアップする段階かと思います。今の発表に何か意見はありますか。
 - 中の寺では、これからの時期桜が綺麗に咲きます。そこで着物を着て写真を撮れば映えると思いました。
 - 着物を着るのは女性のイメージがありますが、男性の着物もあるのですか。
 - 銀座では着物を着ている男性も多いです。
 - 観光地では着物を着ている 20 代くらいの男性も多いですよ。
 - 旅館で行っているコスプレでの撮影とも何か一緒にできるのではと思いました。

(E 氏)

- 前回のワークショップで図書館の話をした際に、E さんからは個人として常磐炭鉱の歴史、原発遺産の話、外国人強制労働の歴史について色々なところに取り上げてもらい、広める活動をしたいとのお話をいただきました。
- 外国人強制労働の歴史にちゃんと対峙し、世界に発信することを常磐からできたらと思いお話をしました。
- 今回のワークショップの趣旨はビジネスだったため、市から今後の進め方についてフォローいただけますか。
- 湯本には昔は炭鉱があり、温泉があり、フラがあり、未曾有の災害などの影響を受けながらも、そこから復興している歴史があります。再生整備を進めるにあたり、色々な部署が関わりますが、担当がそのような歴史を把握することは大事だと思います。こういったことを一緒に勉強していくことができると思います。また、常磐炭田史研究会という組織があり、市 OB の方も在籍していますので、お話を一緒に聞きに行くことも可能かと思います。
- 今日参加されている方に聞きたいのですが、このワークショップについて、いわき市のホームページから見つけて参加された方はいますか。ほとんどいないと思います。ホームページから検索してもほとんど出てきませんでした。このワークショップは閉鎖されて、限定的な人しか参加されていないと思います。また、ワークショップの趣旨がよく伝わっていないと思うため、より広く伝わっていれば事業を

やりたい人がもっと集まったのではないかと思います。情報が伝わっていた人とそうでない人で分断が発生してしまうのではないのでしょうか。きちんと歴史に向き合うことが100年、200年先のまちの人の文化や教養を作ることになると思います。また、私がもう一つやりたいことは、常磐支所の保存です。現在の常磐支所は常磐炭鉱がまだ稼働していることから存在していたため、歴史的な施設の保存意義があると思います。その場所にある歴史を掘り起こして、それをブランディングすることで、その場所固有の独特のブランディングをするヒストリカルブランディングという言葉が提唱されている方もいます。私は外国人強制労働の歴史、炭鉱の歴史にきちんと向き合い、市民の資産である常磐支所の保存につなげていきたいと思っている次第です。

- Eさんの発表に何か意見はありますか。
- 私は古い建物が好きなので、古い建物を残すことは賛成です。
- 私もレトロなものが好きです。人間の命は限りがありますが、物は大切に扱えばずっと生きることができます。その価値を未来の子供たちに見せてあげることが大事だと思います。私の食堂が昔は炭鉱長屋だったということを知ってから、全国で古いものを集め、飾っています。建物は解体するということを行政や大家からも伝えられていますが、建物の価値を湯本の人に知ってもらいたいと思っています。皆さんにレトロの本当の価値を知ってほしいです。

(F氏)

- Fさんから、温泉と古い家の話から、温泉民泊をテーマ民泊にしてみたいとのお話がありました。温泉を引いている一般家屋を利用しながら、例えば釣りや温泉やゴルフと温泉のようなテーマ民泊ができればとお伝えしました。ただ、Fさんからは、自分が民泊を運営するのではなく、こういったことを応援できるまちにしていきたいとのお話がありました。その考えについて話してもらえますか。
- 私は民泊を運営したい考えがある一方、今日皆さんからお話があったようなレトロ、歴史、文化も本当に大切だと考えています。ビジネスを始めるにあたっては、1人で進めることはなかなか難しい。そこで私はビジネススクールのようなものがあつたらいいなと思いました。このまちは、温泉や歴史に特化したチャンスがあるということを作り続けて、新しい経営者だけでなく、自分の商売をもっと強くできるようなものを作り上げていきたい。まちに住んでいると、文化が衰退していくと感じる部分があるので、まちを元気にするには、色々なことを経営したり、考えたり、チャレンジできたりするようなものを考えないといけないと思います。レトロについてお話がありましたが、僕は今、まちなみを創造しようとしています。ただ、それには想いがないと続かない。そこを皆さんの意見も聞いて連携しながら進めていきたいと思っています。
- ありがとうございます。一つ、僕の立場からで恐縮ですが、今後の湯本は、やりたいことを誰かが先頭に立って引っ張っていく、動いていく時期になるのではないかと思います。たくさん意見が出た後に、一歩踏み出して物事を変えていくことが重要です。誰がそれをやるのか、を考えていくと、少しずつ前に進むのではないかと思います。

—以上—